

| | |
|----|----------------|
| 公表 | 事業所における自己評価総括表 |
|----|----------------|

| | | | |
|-----------------------|------------------|----|----------------|
| ○事業所名 | 放課後等デイサービスHARU池田 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2024年 9月 1日 | | ～ 2024年 9月 30日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 33 | (回答者数) 24 |
| ○従業者評価実施期間 | 2024年10月1日 | | ～ 2024年10月31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8 | (回答者数) 4 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2024年 12月 1日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 基準配置および加配要件を満たす適切な人員配置や月1回のミーティングによる業務改善のPDCAサイクルの実施。また入社時の動画研修と月1回の勉強会による職員の資質向上。 | LINE等を活用した自然な情報共有と記録や保護者参加型イベントによる交流機会の創出。さらに苦情対応マニュアルの整備と迅速な対応等整った支援体制。 | 非常勤職員のプログラム立案への参画機会の創出、支援終了後の振り返りミーティングの実施検討。アセスメントツールの見直し。 |
| 2 | チームでの支援プログラム作成と個別支援計画の策定や支援前の職員間打ち合わせの徹底、4つの基本活動（自立支援、創作活動、地域交流、余暇提供）を組み合わせた包括的支援。また5S委員会の設立による清潔で快適な環境維持や相談室兼静養室の設置による個別対応可能な環境整備。 | 各種マニュアルの整備（事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応）や定期的な避難訓練・研修の実施、虐待防止委員会の設置と定期的な研修等徹底した安全管理。 | バリアフリー化（スロープ等の設置検討）や相談室兼静養室が使用中の際の代替個室の確保。 |
| 3 | 送迎時のコミュニケーションによる情報共有や家族参加型の勉強会の実施。さらにSNS（ブログ、Instagram）による情報発信。 | 定期的にSNSを更新するを意識し、活動の透明化を図る。 | マニュアル内容の保護者への周知強化。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 施設・設備面の不十分さや支援体制の課題 | バリアフリー化されていない施設構造や個別対応スペースが限られている（相談室兼静養室が1室のみ）こと。施設の構造上、死角が存在する可能性がある。支援体制として非常勤職員の参画が限定的プログラム立案に参加できていないや活動内容の決定に関与が少なく。また支援終了後の振り返りや長期休暇期間中の職員間の情報共有が不十分。 | 施設のバリアフリー化や非常勤職員を含めた支援体制の再構築。支援の振り返りと改善のための体制整備。 |
| 2 | アセスメント・評価の弱さや関係機関との連携不足 | 支援記録が改善につながる形で活用されていない。医療機関との連携が限定的、一部の学校との連携が困難である。就学前施設との情報共有体制が未確立で地域の児童施設（放課後児童クラブ、児童館等）との交流機会がない。 | 関係機関との連携強化。地域との交流機会の創出。 |
| 3 | 安全管理体制の不備や職員の専門性向上機会の限定 | 安全計画や各種マニュアルの内容が保護者に十分周知されていない。またヒヤリハット事例の共有と再発防止策の検討が不十分である。外部からのスーパーバイズや専門的助言を受ける機会が限られている。 | 安全関連マニュアルの保護者への周知やヒヤリハット事例の共有体制の確立。職員の専門性向上のための研修機会の拡充。 |